

意識していますか？ 家庭の中の男女差別

男女差別をなくし、一人の人間として生きられる社会の実現への取り組みは、社会制度の面では整いつつあります。

しかし、長い間の制度や慣習によって培われた性別役割分業意識は、日常生活の中で、私たちの心身深く浸透しています。

真の男女平等社会を実現するには、それらを、私たち一人ひとりが時間をかけて意識的に見直していくしかありません。

生活の中心である「家庭」に目を向け、家族間の何気ない言動に現われる男女差別について、日頃気になっていることなど、自由に話し合っていました。



●出席者（五十音順）……いずれも市内在住

- 大塚佳子さん** 30代 障害者関係の仕事 家族は夫、娘2人、息子1人
小野 進さん 50代 会社員 家族は妻、息子2人
唐木久美さん 20代 大学院を目指して浪人中 両親、きょうだい同居
嶋田元彦さん 40代 会社員 家族は妻、息子3人、娘1人 実母同居
真鍋映子さん 50代 専業主婦を経て現在は自営業 家族は夫、娘1人、息子1人
 司会 市川敏子 齋藤三枝子（編集委員）

市川 社会制度上、女性の地位は向上してきているのですが、家庭の中では、男性、女性の役割分担があるのではないのでしょうか。自分では意識していませんが、よく考えると、差別かなと思えることを多くを出していただきたいと思っています。

私自身、出かけるとき、息子にはご飯を作るけど、娘には「自分でやらない」と言っています。

齋藤 つい最近、夫が「本当は大工仕事が好きなんだ」と言ったんです。嫌いなのに、男の仕事ということやらざるを得なかったんですね。私自身、大工仕事は男の人の仕事だと思っていました。そういうことって無意識の中の差別なのかなと思います。

小野 小学生の頃から、「男らしく」などと言われるのが不愉快でした。結婚するときも、必ずしも妻が料理をするものだと思っていたわけではありません。十数年くらい前に、男の料理クラブに参加したんです。自分で食べるものは自分で作らなさいいけないんじゃないかな、ということ。あまり生活の中には定着しなくて九〇%以上は家内が作っているのが現実ですが、でも、妻が作れないときには私が引き受けるようにはしています。

大塚 私自身は女二人のきょうだいで、夫は一人っ子です。子どもが生まれると、夫の両親は「内孫」という捉え方をして、私の両親は、嫁に出した娘の子どもだからしよっちゅう会いに行くわけにはいかないと遠慮しているのが感じられました。私の母はかつて男性と同じように仕事をしていたけれど、社会通念に従って結婚

するとき辞めたし、父も「男は台所に立つものじゃない」と教えられて育ったようです。夫の親は、理解はあるのですが、娘を持つ親の気持ちは分からないという面もあるのかもしれない。男性側の両親と同居していた場合、女性側の両親は孫に会いに行きづらいついて思っているのではないかと思います。

市川 うちも長男が生まれたとき、お姑さんに「ああ、良かった、跡とり息子が生まれた」と言われて、そういう言葉がうちにもあったんだと思いました。

真鍋 女の子はかわいいお嫁さんになるのがいいのだろうと思って育ちました。私の夫は企業戦士で、私はずっと専業主婦でした。子どもは上が女の子で下が男の子です。平等に育てたいと思っており家事手伝いを知らず要求していたのでしよう。「なんで私ばかりに」と反発され、そのうち、弟が野球を始めましたので、疲れているだろうと私の遠慮から、二人の家事労働参加は失敗に終わりました。

今の社会的な状態の中で、家庭の中で家事を平等にするのは大変だと感じています。社会的な構造をまず解決していかないといけないのかなと思っています。

嶋田 両親も妻も仕事ももっていて、私自身、男の仕事、女の仕事という考え方はありません。今、家内は出産から目が浅くて私が家事をやっていますが、子どもにも父親が家事をする姿を見せることによって、男女に限らず、自分の身の回りのことはできるように自立してほ